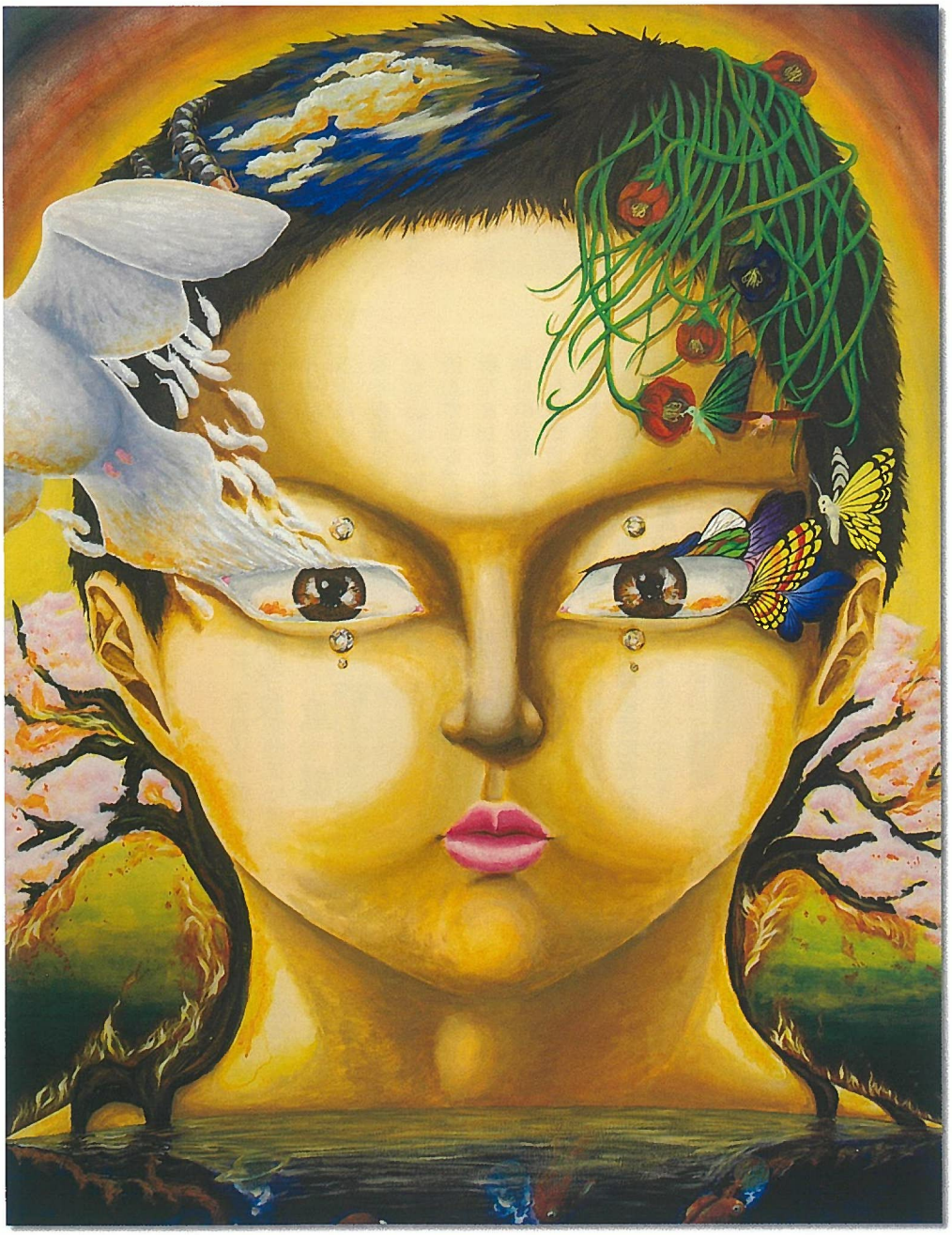
人と自然と文化にやさしい地域づくり

山口県教育 3

Education of the Yamaguchi prefecture

人間性豊かに生きる ―「人間性」を求める―

令和5年 No.1333



令和３年度　第74回山口県学校美術展　推奨作品
「humanus-nature」
山口県立徳山高等学校　１年（受賞時）　青木（あおき）　璃和（こお）

■卒業式に込める思い
周南市立今宿小学校　校長　兼重　彰洋
山口市立二島中学校　校長　関口　富夫

■やまぐち子ども未来型学習プロジェクト
山口市立生雲小学校　教諭　余田　誠
5年　伊藤　美音
5年　木村　美優
5年　須山　琉月
5年　田村　祐斗
5年　古市　七夢

■やまぐちでの学びを生かす
宇部フロンティア大学短期大学部保育学科
2年　吉川　愛実
山口学芸大学教育学部教育学科
4年　橋本　真希
山口県立大学看護栄養学部栄養学科
4年　松本あすか
山口大学大学院教育学研究科
教職実践高度化専攻教育実践開発コース
2年　杉山　隼一

■地域活性化活動助成事業
わくわく土曜塾実行委員会
前塾長　藤田　悦子

あなたのアクションは…

山口県教育会がすすめる
「元気やまぐち」三つのアクション

◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち
◎笑顔でつなぐ 安心やまぐち
◎ゴミ 落書きのない美しいやまぐち

一般財団法人　山口県教育会

〒753-0072　山口市大手町２－18　TEL 083-922-0383　FAX 083-922-5768
URL http://www.ykyoikuk.or.jp　E-mail ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp
明治36年4月第１号　毎月１日発行　発行人　会長：倉増誠彦／編集長：西岡　尚

卒業式に込める思い

夢の実現に向けて

周南市立今宿小学校
校長　兼重彰洋

学校教育目標　「夢と和と力」

本校は、「夢と和と力　『育てよう夢、つながろう和、伸ばそう力』」の学校教育目標の実現に向け、コミュニティ・スクールの仕組みを基盤として、学校と家庭・地域が連携・協働して子どもたちの豊かな学びや成長を支援している。

特に、昨年度から「つながろう和」に重点を置き、日々の教育活動に取り組んできた。子どもたちが、温かい地域の中で育っていく中で、たくさんの人と出会い、多くのことを学んでほしいと願っている。家族、友だち、地域の人、教職員…。こうした多くの人が自分たちの心の支えとなっていることに気付き、地域とつながり、地域の温かさやすばらしさを実感してほしい、これから先も、感謝と地域を愛する心を大切にして、様々な人と出会い、「つながる(和)」ことを通して「広い心」「温かい心」「燃える心」をさらに高めてほしいと願っている。こうした心の成長が、学力や生きる力の向上の源になっていくと確信している。

また、力を伸ばしていくことが、「夢」の実現に一歩ずつ近づいていく。子どもたちには、常々「夢」をもち、追い続けていってほしいと伝えている。実現しようとする「夢」があるからこそ、新たなことに挑戦する気力が湧き、苦難を乗り越え、自らの力や技を磨き続けていくことができるのだと…。

そして、卒業生へのメッセージには「どんなに困難なことであってもそれをやり遂げようとする強い決意があれば、道は開ける」と、言葉を添えている。

グラウンドの芝生と校舎

卒業生に贈る言葉

みなさんは、この6年間、自分の目標や夢に向かって、努力し続けてきたことと思います。その中で自分の得意なことやこれなら自信があるといった自分のよさや強みに気づき、力を伸ばしてきたことでしょう。これから、中学校へと旅立つみなさん、自分のよさをこれからも磨き続けてください。

時にはどんなにがんばっても努力が報われないことがあるかもしれません。そういう時は、自分が困難に耐え抜く力をもっているか、ここであきらめる人間か、試されていると考えるようにしてはどうでしょうか。

努力した事実や経験、その間に身に付けた知識や、力、技術、精神力は決して失われることはありません。努力をすることで、人として大きく成長していることに変わりはないのです。

地域安全マップの発表

自分の未来は自らの強い意志で決まると私は思います。勉強がつらい、自分には難しい勉強は無理だとか、運動は得意だと思っていたけど、自分よりもっと上手な人がたくさんいるから、この競技をやめようとか、早い段階で決めたりせず、あきらめずに挑戦し続けてください。努力する中で身に付けた力は、みなさんのさらなる成長の源となり、夢の実現に近づいていきます。

そして、これまでみなさんを支え続けてくださった家族やこれまで出会ってきたたくさんの方々への感謝の気持ちを忘れず、これからもずっと大切にしてください。自分に多くのよいところがあるのは、こうしたたくさんの方々が応援してくださっているからこそなのです。感謝する心、謙虚な心がみなさんの力をさらに伸ばしていくのです。

これから、大きく羽ばたいていくみなさんを心から応援しています。

アサギマダラの飛来を願って
～フジバカマの植え付け～

結びに

定年退職を間近に控え、振り返ってみると、走り続けてきた教師生活だったと思う。これまで、どれだけ悩み、迷い、後悔を繰り返してきたことか。子どもたちと喜びを分かち合った楽しい思い出もたくさんあるが、苦い経験も数多く記憶に残っている。その間、先輩方や同僚、保護者、地域の方、様々な職種の方々…多くの人と出会い、支えられ、教えていただいてきた。たくさんの方々とつながりを深めることができたことは、今も私の大切な宝となっている。改めて心から感謝申し上げたい。

私自身、新たな夢の実現に向け、第二の人生を一歩ずつ、歩んでいきたいと思っている。

二島愛をつないで

山口市立二島中学校
校長 関口富夫

二島の地

二島の地名の由来は、沖合に雌島・雄島の二島があり、弘仁5年（814）8月宇佐八幡宮の分神を勧請してこの地にまつり、嵯峨天皇が「八幡二島宮」としたとある。古くから山口・周防の海運の要衝であった歴史ある秋穂二島。山口市の南部に位置し、瀬戸内海に臨む風光明媚、温暖な農漁村地帯である。

近世の大規模な干拓により農地が開けた。地区内には、真言宗の名刹「朝日山」や「秋穂八十八カ所札所」の一部がある。

校舎

地域の高齢化率は、40パーセントに達しており、他地域と比べると三世代同居の家庭が多い。また、昔から小中学生を対象とした連合自治会等の取組や地域子ども会の行事が数多く催されるなど地域の教育力も高い。

学校教育目標と生徒会スローガン

本校の教育目標は、「ふるさとに誇りをもち、未来に向かって挑戦する二島っ子の育成」である。ふるさとを原点に数々の困難を乗り越えて自分の目標をつかむ。原点である二島で様々なことを学ぶ必要があるということである。私たち二島小中学校は、小中連携から一貫教育校として結びつきを強固にして教育目標の共有・9カ年の学びの連携に取り組んでいる。また、地域とより深く連携をとりコミュニティ・スクールの「地域とともにある学校」として、様々な行事に取り組んできた。

令和4年度の生徒会スローガンは、「合わせる足並み　合わさる心。結」である。昨年度、生徒会執行部が参加した学校運営協議会での熟議の中で「あいさつ運動と地域貢献ボランティアの拡大化」が議論され地域・小学校とも足並みをそろえ活動を進めていこうとなった。そこで、作られたスローガンである。

進化したあいさつ運動と地域貢献ボランティア

本年度の生徒会執行部は、これらの取組を小中合同で実施したいと考える。そこで小中管理職での協議・それぞれの担当者の会議・小中児童会・生徒会の会議を行い、企画運営を児童生徒に任せ実施することができた。成果として、小中合同で実施する意味が出ており、中学生のリーダーシップや小学生の積極的な取組に相乗効果が現れた。特に地域の方からは、来年度は、地域も一緒に参加したいとの声もあがった。

地域貢献ボランティア

地域とともに歩む二島中

もっと地域の方の思いを生徒に伝えたいと考え実施したのが「地域人講座」である。地域の方をお招きしてわずか20分の中で話をしてもらう。テーマは、学校で考え、人選は、学校運営協議会にお任せをする。昨年度から始めたこの企画は、二島で農事組合法人を立ち上げ、牛の飼育に取り組んでいる方から始まり、子どもに華道を教える華道家、二島の漁業を支える水産加工業者、伝統の和菓子の復活に取り組む若き起業家など5人を数える。それぞれの人たちは、資料やプレゼンテーション用のスライドを用意し生徒にわかりやすく話をしていただいている。そんな中で地域の人の名言が生まれる。

地域人講座

地域の人の名言

○勢いのある人間になれ、勢いが不可能を可能にする。
○ピンチこそチャンス、物事は前向きに考えるとチャンスになり、後ろ向きに考えるとピンチになる。
○自分が好きと思うことを大切にして歩んでほしい。住んでいる「二島の今」をしっかりと見てほしい。
○華道は「引き算の美学」間を大切にしている。見えないものを大切にする。ひいては、他者を大切にする極意です。

これらの言葉は、生徒の心の中にしっかりと刻まれ、生きた「二島学」を学んだ瞬間である。これからも二島の子どもたちは、地域の方から沢山のことを学ぶであろう。

卒業生とともに

僅か2年の二島中勤務であったが、生徒たちのおげで密度の濃い2年間になった。それは、生徒を小さいころから見てきた地域の活動がそうさせていると感じる。早くから、サタデープランなど子どもの休日の活動を地域でサポートする体制がある。これは、地域の財産であり、その財産が地域の宝を育てる体制はこれからも守ってほしい。わたしは、卒業生とともに願っている。

みて、きいて、あるいて、世界に図鑑を届けよう「生雲の360度図鑑」

山口市立生雲小学校
教諭　余田　誠

360度図鑑とは

生雲小学校は、山口市の北部の山間、阿東生雲の地にある自然豊かな小学校です。全校児童は18名の小規模校。子どもたちはその豊かな自然の中、仲良く伸び伸びと育っています。一方で少人数が故に、コミュニケーションの場が限られ、自分の考えを人に伝えることに苦手意識を感じている子も少なくありません。

そこで本校が昨年度から山口市教育委員会と山口情報芸術センター（YCAM）と連携して取り組んでいるのが、自分たちでつくる360度見渡せるデジタル地域図鑑『360度図鑑』です。

この『360度図鑑』は山口市教育委員会が実施する「やまぐち子ども未来型学習プロジェクト」とYCAMの「みらいの山口の授業」との共同事業として行われ、そのモデル校として、実践を行っています。360度カメラやタブレット、ドローン等を使い、地域の魅力や自慢・良さなどを調査し、オンライン上でお互いの気付きや発見等を360度写真にまとめました。それを一つの図鑑として作り上げ、インターネットで世界に発信することで児童の表現力等の向上を目指しました。

取組と成果

(1) ICT機器のツール化

地域の魅力調査では、写真や動画の撮影、図鑑作成時には文字の入力、写真のリンクの貼り付け、複数のサイトをまたぎながらの作業など、ICT機器をふんだんに活用しながら360度図鑑を作成していきました。

初めは戸惑いながらの作業でしたが、回数を重ねることでスムーズにICT機器を使いこなせるようになりました。また、それにより自分の考えをまとめ伝え合うツールとしてICT機器を普段の授業など様々な場面で活用できるようになってきています。

(2) 表現力・情報活用能力の向上

児童は「生雲の魅力を世界に発信する」という明確な目的をもち図鑑作成に取り組みました。相手意識を強くもつことで、より伝わりやすい表現や写真・動画の提示の仕方を模索するなど、楽しみながら創造的に取り組むことができ、表現力・情報活用能力の向上につながりました。また、完成した図鑑を地域の方や他校の児童へ紹介する機会にも多く恵まれ、話し方や資料の提示など発表に必要な力や人前で話す自信がつきました。

さらに、ウェブサイトの一般公開にあたり、画像引用のルールやインタビューを受けてくださった方々への事前確認など情報社会におけるデータの扱い方を児童たちが学ぶ機会にもなりました。

(3) ふるさとへの愛着・人とのつながり

地域を歩いて図鑑作成をする中で、生雲地域の魅力を再発見したり、地域の方々の温かさや願いに触れたりすることで、ふるさとへの思いをより強くすることができました。また、YCAMの方を初めとした情報テクノロジーのプロの方々とつながることもできました。

このように、360度図鑑を通して、つながりの輪を広げていくことも大きな魅力だと感じています。

今後の展望

今年度は、生雲小に加えて、白石小学校、秋穂小学校の2校がモデル校となり、3校で360度図鑑についてオンラインで交流しました。既に、山口市の全ての小学校区のサイトが整備されており、来年度は市内全部の小学校で360度図鑑作成に取り組めるようになります。各校が地域の良さや強みを生かし進めたいことをこの図鑑づくりに取り入れながら、有効な教育活動として活用が広がっていくことを願っています。

おわりに

この360度図鑑の取組によりYCAMは、革新的な技術やコンテンツから、優れた作品におくられる「日本eラーニング大賞」で文部科学大臣賞を受賞されました。是非QRコードから本校の図鑑にアクセスしてみてください。

360°図鑑QRコード

児童の感想

農業への思い

5年　伊藤　美音

私は、米作りのことを360度図鑑にまとめていく中で、農業は大変な仕事だと知りました。苗に毎日水をあげなくてはならないし、田植えは、暑い時期の作業のためとても疲れます。稲刈りも、台風で倒れた稲を起こしながらの作業でした。

苦労する仕事がたくさんありましたが、うれしいこともありました。それは稲を収穫しみんなで食べたことです。おにぎりを先生方に食べてもらい感想を聞かせていただくと、美味しいと言ってくださいました。とてもうれしかったです。農家の人の気持ちも同じではないのかなと思いました。

360度図鑑にまとめるときは、大変だったことと、うれしかったことを伝わりやすいようにまとめることで、大変さや楽しさなど、農家の方がどんな気持ちで仕事をしているかが分かりました。これからも農業に関わっていきたいと思います。

農作業体験の調査

クロームブックで生雲の魅力発見

5年　木村　美優

私が、360度図鑑に取り組んでみての一番の成果は、生雲の様々な場所がわかるようになったことです。

私は、今まで生雲のことが、あまりくわしくなかったけれど、クロームブックを使って調べたり、様々な体験をしたりしたことを360度図鑑にまとめていくことで、生雲のことをたくさん知ることができました。

そして、図鑑を作っていく中で、最初はクロームブックの使い方もわからずローマ字入力もできませんでしたが、日に日に、ローマ字が分かるようになり、操作が分かってきました。今では自由に使いこなすことができるようになっています。

これからも、クロームブックをいろいろな場面で利用して、賢くなりたいと思います。

360°図鑑への入力

生雲の魅力を世界に発信

5年　須山　琉月

私は、最初「生雲の魅力を世界に発信する」と言われ、不安でした。クロームブックも初めてでうまく操作ができるか自信がなかったし、世界のいろいろな人が見ることになるから変なことは書けないと思ったからです。

しかし、実際に図鑑を作り始めると、クロームブックの使い方が分かるようになり、楽しく図鑑を作ることができました。そして何より、農家の方があとう和牛やあとう米を作るのにたくさんのことを工夫していることや、地域の人が生雲を大切に思っていることが分かり、その思いや魅力を伝えたいと私自身も思うようになりました。

私たちは今、今年度の最後のまとめをしています。360度図鑑を通して、世界の多くの人に生雲の魅力を発信し、生雲のことをもっと知ってもらいたいと思います。

他校への360°図鑑紹介

生雲大好き

5年　田村　祐斗

私たちは今、今年度の最後のまとめをしています。360度図鑑を通して、世界の多くの人に生雲の魅力を発信し、生雲のことをもっと知ってもらいたいと思います。

僕は、「生雲の魅力を調べよう」となったとき、生雲の事はもうだいたい知っていると思っていました。しかし、実際に見学や農業体験をしたり、調べたりしていくうちに全然知らなかったと実感し、もっと生雲のことを知りたいと思いました。

4年生の時には僕の家でも育てているあとう和牛について、5年生では、生雲で一番作られているあとう米について調べました。これらの生雲の特産品をくわしく知っていくことで生雲のことが以前よりもっと好きになっていきました。そして自分が知らなかったことを、360度図鑑を使って発表し、みなさんに生雲のことを知ってもらえたのがとても嬉しかったです。

これからもっと生雲のことや農業について学び、生雲の自然の豊かさや人の優しさを伝えていきたいと思います。

防府地区教育振興フォーラムで
360度図鑑を紹介

つながる学び

5年　古市　七夢

私が360度図鑑を作ってみて感じたことは、いろいろな人とのつながりです。

私たちは生雲の魅力であるあとう米を360度図鑑にまとめていく中で、農業をされている方や、同じように地域のことをまとめている学校の人やYCAMの人など、いろいろな人とつながる事ができました。教室で学習しているだけでは、つながることのない多くの人と知り合うことができ、自分の知らない世界を知ることができました。

特にYCAMの人と一緒にこのような活動をするとは、思ってもいなかったので、最初はとても信じられませんでした。しかし、やっていくうちにただ教えてもらうのではなく、自分で新しいことを探しながら取り組む楽しさを学ぶことができました。

これからも、いろいろなつながりを増やし、たくさんのことを学んでいきたいと思います。

YCAM「日本eラーニング大賞
文部科学大臣賞」受賞

共に成長できる保育者を目指して

宇部フロンティア大学短期大学部保育学科
2年　吉川　愛実

私は小さいころから抱いている保育者になりたいという夢を叶えるため、今通っている学校に入学しました。保育所実習や教育実習で実際に子どもたちと関わる中で保育者になりたいという思いがより一層強くなりました。

今までは保育者になりたいという夢を叶えるためだけに我武者羅に走ってきましたが、就職活動の際に理想の保育者像について考える機会がありました。その時、学校での講義や実習、友だちとの意見交換の中で共に成長できる関係に魅力を感じ、今では子どもと共に成長できる保育者を目指し、日々精進しています。また、保育者となった時に様々な道が開けるよう認定ベビーシッター資格や児童厚生2級指導員資格取得のための勉学にも力を入れています。

2年間で、様々な場所での実習を行いましたが、その中で最も自分の成長を感じられたのは教育実習です。初めて1日の保育を担当する全日実習を行いました。不安と緊張でいっぱいでしたが、何度もシミュレーションし、落ち着いて保育を行うことができました。1日の保育が終わった際に、担任保育者からご指導いただき、保育者として何が大事か、また自分が保育者になるにあたり、足りていない力についてもとらえることができました。保育者としてはまだまだ未熟ですが、一歩ずつ小さいころからの夢に近づいているように感じます。

この度、岩国市内の私立認定こども園への就職が内定し、4月から勤務することになっています。子どもの声を聞きながら、良好な新しい関係を築き、子どもと共に成長できる保育者を目指していきたいと思います。今からとてもドキドキわくわくしています。

児童館実習

子どもに寄り添い、共に成長できる教師を目指して

山口学芸大学教育学部教育学科
4年　橋本　真希

4年前、「先生になりたい」という思いで進学した大学も、卒業まで残り数か月となりました。振り返ると、この4年間で、様々なことを経験し、多くの人との出会いがありました。

授業では、劇や模擬授業など実践的なものも多く、同期と共に協力したり、刺激を受けたりしながら楽しく学ぶことができました。また、教育実習やボランティア活動など、実際に現場に出て、子どもたちと関わったり、先生方から多くのことを教えていただいたりして、教師になるための基礎を身に付けていくことができたと思います。

なかでも、大学1年生の頃から関わらせていただいた子ども食堂でのボランティアは、深く印象に残っています。子どもたちはとても個性豊かで、最初はどのように関わっていけば良いか分からず、子どもたちとの距離をなかなか縮めることができませんでした。そのため、職員の方や先輩、同期の関わり方を見て学びながら、積極的に話しかけたり、他の子どもを巻き込んで遊んだりと、試行錯誤しました。そうした日々を繰り返すなかで、一人ひとりにそれぞれ良さがあり、その子に合った関わりを探りながら接することが大切だと学びました。学年を経るに連れて、子どもたちから「一緒に遊ぼう」「勉強教えて」と声をかけてくれるようになり、子どもたちが安心して、楽しく過ごせる居場所であるよう、そして安心・信頼できる存在となれるよう、成長していきたいという想いがより一層強くなりました。

4年間を通して、教師は子どもたちの成長を近くで見守り、支えることができる、とてもやりがいのある仕事だと実感しました。これまで学んだことを生かして、これから出会う多くの子どもたちに寄り添い、共に成長することのできる教師となれるよう、日々精進していきたいです。

節分の日に子ども食堂で

コロナ禍だからこそ見えたもの

山口県立大学看護栄養学部栄養学科
4年　松本　あすか

新型コロナウイルスが流行して、丸3年が経ちました。大学2年生から3年生前期にかけ、授業はほぼ遠隔。パソコン越しに先生や友人と交流し、授業が終わった瞬間に静まり返った、ひとりぼっちの空間に引き戻される日々でした。何をするにも身の入らない、刺激のない毎日を過ごし、友人と気兼ねなくご飯を食べに行ったり、マスクなしに楽しくおしゃべりをしたり、そんな日常が当たり前ではないということを実感しました。

所属している食育プログラム開発チーム食育戦隊ゴハンジャーの活動でも対面での実施が制限される中、活動の形を模索する日々が続きました。チームではこれまで、食材を触る・匂うなどの五感を活用した食育活動を行ってきました。しかし、遠隔での活動を行うにあたり、子どもたちの表情や反応から楽しさや理解度を把握することが難しく、大きな課題となっていました。そこで、画面越しでも子どもたちが楽しく食について学ぶことが出来るよう、メンバーで協力し新たな教材やゲームを考案しました。自身が企画リーダーを務めた食育活動では、現地での活動である対面・大学と現地を繋いだ遠隔・事前に収録した映像を用い、活動形態を工夫しました。その結果、従来の対面のみでの活動では得られない臨場感やストーリー性が増し、子どもたちもわくわくしながら活動に参加してくれました。これは、チームの活動の中でも初めての試みであったため難しい部分もありましたが、新たな食育の形を見つけることができ、さらにレベルアップしていけるのではないかと感じました。

私は4月から、県内の高等学校で家庭科の教員として勤務します。大学4年間で学んだことやコロナ禍だからこそ学べたことを生かし、これからの時代を担う子どもたちに食の大切さを伝えていきたいです。

対面と遠隔を併用した食育の実践

日々学び続ける

山口大学大学院教育学研究科
教職実践高度化専攻教育実践開発コース
2年　杉山　隼一

私は、山口大学教職大学院で2年間、日々様々な講義や山口市立平川中学校での学校実習を通して学び続けてきました。学校実習では、実地授業を計画していくうえで実習校や大学の先生方から多くのご指導をいただき、授業や指導方法等を多様な視点から捉えることができました。その後の授業では、目の前の生徒の実態に合わせて、生徒が主体的に学び、学びの成果を実感できるような授業を実践することができました。

また、体育祭をはじめとする学校行事や校内研修、学校運営協議会等に参加させていただくなど、教職大学院だからこその経験、学びを得ることができました。特に体育祭については、体育祭が開催される週は毎日実習に参加させていただき体育主任の先生から多くのご指導をいただきました。ご指導をいただくまでは全体を運営する役割があるといった抽象的なイメージしか持てませんでした。しかし、先生の手厚いご指導もあり、毎日の練習計画や雨天時の代替案、会場の設計図の作成等の具体的な役割を学ぶことができました。また、「体育主任は自分自身が率先して動くことに加えて、子どもたち、他の先生方を動かす力が重要」と言葉をいただき、私自身、周りを動かす力を高めていく必要があると強く感じました。体育祭本番では学校だけでなく保護者や地域の方々とともに体育祭を作り上げることに微力ながら貢献することができ、保護者や地域とのつながりの大切さを実感しました。

4月からは、高等学校の保健体育科教員として教壇に立ちます。教員となっても大学院での日々のように学び続けることの大切さを心に留め、精進していきます。これまで、これからの学びや経験を生かし、未来を担う生徒たちがたくましく、未来を拓いていくことができるように最大限尽力していきます。

学校実習 中2 保体「バレーボール」

わくわく土曜塾イン長門

わくわく土曜塾実行委員会
前塾長　藤田悦子

わくわく土曜塾は地域の公民館に事務局を置き、平成18年から始まり今日に至っている。元来は対象を深川地区の小学生に限り毎年募集をかけていたが、現在は長門市全域の小学生に対象を広げている。今年度は30名の子どもたちが参加している。名前の通り、土曜日を利用して月2回程度、公民館と我々ボランティアで構成している実行委員会が計画から運営まで行っている。

わくわく土曜塾の目的と留意点

○　自然に恵まれたふるさと長門のよさをいろいろな体験活動をとおして知り、自分の住んでいるふるさとを愛する子どもたちの育成に努める。

○　より興味と関心をもって取り組むことができる内容を吟味し、学校生活ではできない楽しさと充実感を味わわせる活動の場にする。異なる学校や学年の友だちと縦割り班を構成し、指導してくださる地域の方々や我々実行委員会のメンバーとの交流をとおして礼儀作法やコミュニケーション能力の向上を図る。

○　講師の先生方は、幅広い視野をもち、地域で活動している団体の方にお願いする。

実践している活動

①　同学年、異学年、他校の友だちとの交流
②　近隣の中学生、地域のサロンのお年寄りとの交流
③　長門で盛んなスポーツの体験
④　自然のすばらしさの体験（登山、シーカヤック、海、森林での遊び）
⑤　地域に残る文化を知る活動（捕鯨、歴史資料館見学など）

【活動④と⑤の例《高速船に乗って通地区に行こう》】

今年度の教育会助成金を活用させていただき実現した企画で、かつて捕鯨が盛んだった長門市通地区での活動。仙崎の漁港から高速船に乗っていざ青海島の通地区へ。現在はくじら資料館に当時の捕鯨の様子がわかる展示物があり、資料館の館長さんから捕鯨の仕方の説明を受けたり、捕えた鯨の胎児を祀っているお墓で説明を聞いたりして、子どもたちはくじら文化に興味をもったようである。通地区では夏に「くじらまつり」も開催され、市内外から多くの観光客が訪れている。くねくねした細長い路地が多い漁師町特有の街並みが保存されており、子どもたちは古い建物の見学など実体験を通したいろいろな知識を得ることができ、充実した一日となった。

おわりに

参加している子どもたちを見ると、一人っ子や二人兄弟が多く、遊び自体も外遊びよりゲームで過ごすことが多いようである。人間関係では、大勢の中でもまれる経験も少なく、自分の思い通りに事が運ばないとすぐ気分を害する場面も見受けられる。この土曜塾は、先に述べたように、縦割り班で年間をとおして活動しているので、上級生は下級生の扱い方を自然と学び、さりげなく手を差し伸べている様子が垣間見られた。

一昨年からコロナ禍の影響でアウトドアでの活動が主流となり、体を動かすことが多くなった。今回、教育会の助成金をいただくことができ、船をチャーターすることができた。たった15分間の船旅ではあったが、潮風を胸いっぱいに吸い、水しぶきがあがるたびに大歓声をあげていた姿を今でも思い出す。きっと子どもたちの心にもいい思い出として残っていくだろう。

よりよい活動を生むには、スタッフによる具体的な事前打ち合わせが必須である。子どもたち同様、我々ボランティア仲間も、会をとおして成長していきたいと思う。

わくわく土曜塾「高速船に乗って通地区に行こう」